

日本農芸化学会関西支部 評議員会（469回）

平成 23 年 5 月 28 日（土）

議題

1. 評議員の異動

推薦：大阪府立大学生命環境科学研究科教授 乾 隆氏

（推薦者：大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授 太田大策氏）

交代：株式会社カネカ研究開発本部 高橋里美氏

（株式会社カネカ研究開発本部 大橋武久氏より）

大塚化学（株）糖鎖工学研究所 朝井洋明氏

（大塚化学（株）アグリテクノ事業部鳴門研究所 安藤彰秀氏より）

辞退：中西輝雄、中尾義雄、鈴木譲、岩井和夫、上野照雄、上原悌次郎、小出眞次、今安
聡、沖中靖、吉川三吉（郵便）

生中雅也、池田篤治、内海清、左右田健次、土戸哲明、溝口晴彦（メール）

2. 賛助会員の異動

辞退：（株）林原生物化学研究所

3. その他

1) 要旨集とプログラムの扱い

報告事項

1. 評議員の異動

1) 新評議員の紹介

秋山康紀氏（大阪府立大学生命環境科学研究科准教授）

木岡紀幸氏（京都大学大学院農学研究科応用生命科学専攻准教授）

佐伯徹氏（京都府立大学生命環境科学研究科准教授）

保川清氏（京都大学大学院農学研究科食品生物科学専攻准教授）

2. 理事会報告

（資料 A）

3. 各種委員会報告

4. 2012 年度以降の大会担当支部

関西支部：2012、2017、2022、2027、2031、2036、2040

2012 年度大会概要、シンポジウム募集

（資料 B、C）

5. その他

1) 第 468 回講演会受賞者（2011 年 2 月 5 日（土）、楽友会館（京都大学））

若手優秀発表受賞者：

沢田真美（神戸大院・農・生命機能）、宗像樹子（京大院・農・食品生命）

2) 日本農芸化学会関西支部例会（第 469 回講演会、京都府立大学）

一般講演、特別講演（田茂井政宏先生（近畿大農）、日本農芸化学会奨励賞受賞講演）、
特別企画（米谷俊先生（江崎グリコ）、産学交流講演会）、ミキサー（地下生協食堂、18：
00 より）

3) 日本農芸化学会関西支部例会(第 470 回講演会)

日時：2011 年 7 月 2 日 (土)

場所：大阪府立大学 学術交流会館

支部評議員会 (予定) (同会館小ホール, 12:00~)

プログラム

A) ミニシンポジウム「植物生理機能の解明から活用へ」13:00~15:20

小泉 望 先生 (大阪府立大学)「植物における小胞体ストレス応答の分子機構」

嶋田 知生 先生 (京都大学) 「ストマジエンによる気孔密度の調節機構」

小埜栄一郎 先生 (サントリービジネスエキスパート (株))

「フラボノイドの配糖体化酵素の機能進化」

B) 一般講演 15:30~17:00

演題募集中

講演申込締切：6 月 3 日 (金), 要旨締切：6 月 10 日 (金)

連絡先：岩城俊雄 (072-254-9462, iwaki@bioinfo.osakafu-u.ac.jp)

C) 懇親会 17:00 から 同会館サロン (会費 4,000 円)

4) 平成 23 年度中部・関西支部合同大会 (第 471 回講演会)

同日開催：支部評議員会、シンポジウム、懇親会

開催日：2011 年 10 月 1 日 (土)、2 日 (日)

場所：京都大学農学部 (京都大学吉田キャンパス北部構内)

講演申込締切：2011 年 8 月 19 日 (金), 講演要旨締切：2011 年 9 月 2 日 (金)

連絡先：間藤徹 (Tel: 075-753-6109, E-mail: matoh@kais.kyoto-u.ac.jp)

5) 共催・協賛等

(1) 化学工学会関西支部セミナー「バイオをベースとしたレアメタル・希少資源の回収技術-日本を資源大国に-」の協賛 (2011 年 7 月 12 日 (火) 10:45~16:55、大阪科学技術センター4 階 405 号室)

(2) 日本分析化学会近畿支部「第 58 回機器による分析化学講習会」の協賛 (平成 23 年 7 月 21 日 (木)、22 日 (金)、京都大学吉田キャンパス)。プログラムを関西支部 HP へアップ

(3) 有機合成夏期セミナー「明日の有機合成化学」(有機合成化学協会関西支部主催) の協賛 (2011 年 9 月 5 日 (月)、6 日 (火)、大阪科学技術センター8F 大ホール)

6) 訃報

辰巳忠次先生 (終身会員、大阪府立大学名誉教授、昨年 12 月に評議員をご辞退) 2 月 16 日に逝去

7) その他

以上

第 315 回理事会 議事次第

日 時： 2011 年 5 月 6 日 (金) 9:00～

場 所： 東京大学弥生講堂会議室 (東京都文京区弥生 1-1-1)

I. 議事録署名人の選定

II. 報告事項

III. 議題

1. 前回議事録案の承認について…………… 『資料 20』
2. 入退会員の承認について…………… 『資料 21』
3. 会長指名評議員の承認について…………… 『資料 22』
4. 2010 年度収支決算 (案) について…………… 『資料 23』
5. 2011 年度収支予算 (案) について…………… 『資料 24』
6. 新定款第 5 次案について…………… 『資料 25』
7. 「個人からの賛助金」 寄付の受領について…………… 『資料 26』
8. その他
 - (1) 「倫理に関する特別委員会」 の設置 (案) について…………… 『資料 27』
 - (2) 2011 年度大会の中止並びに 2012 年度大会以降開催の担当支部について 『資料 28』
 - (3) 2012 年度大会の開催概要 (案) について…………… 『資料 29』
 - (4) 代議員選挙の WE B 投票について…………… 『資料 30』
 - (5) その他

第 315 回理事会 報告事項

2011 年 5 月 6 日 (金)

《庶務関係》

1. 役員候補者並びに正会員及び終身会員の互選による評議員 (2月2日開票)
役員候補者並びに選出された評議員 _____ 「資料 2」
2. 正会員、名誉会員、終身会員及び学生会員の互選による代議員 (2月1日開票)
選出された代議員 _____ 「資料 3」
3. 授賞選考委員候補者の役員選考委員会による一括承認 (2月17日)
承認された授賞選考委員 _____ 「資料 4」
(細則第 35 条 授賞選考委員は、役員選考委員会の承認を経て会長が委嘱する。)
4. 庶務関係委員会委員
JABEE 対応委員会委員、新法人化対応特別委員会委員、ビタミン B₁ 発見 100 周年記念事業実行委員会委員
_____ 「資料 5」

5. ノーベル化学賞受賞記念講演会の開催

(1) 概要

主催 日本化学会、朝日新聞社
 後援 日本薬学会、日本農芸化学会、有機合成化学協会、北海道大学
 日時 2011 年 3 月 21 日 (月・祝) 午後 1 時から午後 4 時
 場所 日本教育会館一ツ橋ホール (東京都神田神保町)

※中止

(2) 経費負担額 200,000 円

(3) 座席割当数 20 席 ※理事会に打診後、学会ホームページで公募開始

6. 本会推薦の各賞及び助成

(1) 2011 年度日本農学賞の受賞 (2011 年 1 月 21 日決定)

長澤 寛道 氏 (東大院農) 「水棲生物におけるバイオミネラリゼーションの制御機構に関する研究」

4 月 5 日午前 10 時より授賞式、午前 10 時 30 分より受賞講演、午後 5 時より祝賀会、於東京大学弥生講堂

※中止 (4 月 28 日 12:30~ 授賞式のみ開催)

(2) 日本学術振興会 第 1 回育志賞の受賞 (2 月 1 日授賞式 於日本学士院)

吉田 彩子 氏 (東大院農) 「アミノ酸生合成に関わるアミノ酸キナーゼに関する構造生物学的研究」

(3) 2011 年度 (財) 山田科学振興財団研究助成候補者の推薦 (3 件、3 月 25 日推薦、授賞選考委員会扱い)

7. 国際学術集会の共催・協賛・後援 (2011 年 1 月~3 月 4 日受付分)

(1) 協賛 (3 件)

名称: 国際シンポジウム「Garlic Congress 2011—健康増進と生活習慣病予防におけるニンニクの役割—」

会期: 2011 年 4 月 9 日~10 日

会場: 国立京都国際会館 (京都市左京区)

主催: 日本フードファクター学会、湧永製薬

名称: 第 10 回国際幼若ホルモン会議 (10th International Conference on Juvenile Hormones)

会期: 2011 年 8 月 1 日~5 日

会場: 文部科学省研究交流センター (つくば市)

※中止

主催：第10回国際幼若ホルモン会議事務局

名称：第2回プロセス化学国際シンポジウム
(The Second International Symposium on Process Chemistry-OSPC2011)
会期：2011年8月10日～12日
会場：国立京都国際会館（京都市左京区）
主催：第2回プロセス化学国際シンポジウム実行委員会

(2) 後援（1件）

名称：第12回ヒトプロテオーム機構国際会議 (Human Proteome Organization 12th Annual World Congress)
会期：2011年9月14日～18日
会場：パシフィコ横浜（横浜市西区）
主催：日本プロテオーム学会

8. 財団法人農芸化学研究奨励会関係

(1) 理事会・評議員会の開催（2月18日、本会会議室）

- 1) 報告事項 ①平成22年度事業経過報告、②平成22年度収支決算
- 2) 決議事項 ①平成23年度事業計画（案）、②平成23年度収支予算（案）

9. 日本農学会関係

(1) 平成23年度第1回運営委員会の開催（3月3日、於東京大学農学部3号館4階大会議室）

- 議題：1. 新役員・常任委員交代について、2. 平成23年度第1回日本農学会評議員会報告、
3. 平成23年度（第82回）日本農学大会準備状況、4. 平成23年度シンポジウム準備状況、
5. 出版関連準備状況、6. 平成24年度シンポジウムについて

(2) 平成23年度日本農学大会の開催（4月5日、於東京大学弥生講堂）

※中止

10. 公益社団法人化関係

公益法人協会窓口相談（1月20日）、内閣府公益認定等委員会窓口相談（2月25日）

《広報委員会関係》

1. 2011年度大会トピックス賞の選定及びトピックス賞受賞講演会の開催 ※中止

大会プログラム委員会において選出された101演題から、29題に絞り込んで最終選定。

29演題をトピックス賞として大会実行委員長が表彰し、大会最終日に受賞講演会を開催。

※賞状は後日郵送

大会トピックス集及びトピックス賞受賞講演会プログラム 「資料 6」

2. 2011年度大会記者会見の報告

本会側出席者 清水昌会長、植田和光実行委員長、阿部啓子広報担当理事、阪井康能広報担当理事、
三芳秀人実行委員会プログラム副委員長

※記者会見中止、資料手渡し及び郵送 10社 10名

3. サイエンスカフェ 開催済み

・第35回「クスリが働くミクロの世界—ケミカルバイオロジーへの誘い—」

2月26日、於三省堂書店神保町本店（東京都千代田区）講師：吉田 稔（(独)理化学研究所）

4. バナー広告の新規申込

掲載社：アフィメトリクス社、掲載期間：3月1日～5月31日

5. 2011-2012年度広報委員会委員

「資料 7」

《学術活動強化委員会関係》

1. 学術活動強化委員会関係補助状況

「資料 8」

2. 2011-2012 年度学術活動強化委員会委員 ————— 「資料 9」
3. 大会関連行事概要 ————— ※第 37 回化学と生物シンポジウムは開催済み ————— 「資料 10」
4. その他

《和文誌編集委員会関係》

1. 発行状況・制作進行状況 ————— 「資料 11」
2. 2011-2012 年度和文誌編集委員会委員 ————— 「資料 12」
3. その他 3 (2)

《英文誌編集委員会関係》

1. 投稿原稿・掲載原稿の状況 ————— 「資料 13」
2. 2010 年 BBB 論文賞および BBB Most-Cited Paper Award ————— 「資料 14」
3. 2011-2012 年度英文誌編集委員会委員 ————— 「資料 15」
4. その他

《産学官学術交流委員会関係》

1. 産学官学術委員会フォーラム ————— ※中止 ————— 「資料 16」
2. 2011-2012 年度産学官学術委員会委員 ————— 「資料 17」
3. 寄付金の申込状況 (申込枚切)
18 社、580 万円
4. その他

《会計関係》

1. 会計監査の実施(3月11日) ————— ※大地震の当日
2. その他

《支部関係》

1. 2011 年度支部長、支部幹事 ————— 「資料 18」
2. 支部大会, 支部例会, シンポジウムなどの支部行事について順次報告

《その他》

1. 鈴木梅太郎先生ビタミン B₁ 発見 100 周年祝典・記念シンポジウム概要 ————— 「資料 19」
第 1 回実行委員会の開催 (3 月 3 日、本会会議室)
議案: 1. 趣意書の作成 2. 事業内容 a レリーフの制作 b 祝典 c 記念シンポジウム (公開) 「農芸化学研究の伝統と
先端生命科学の進展」(案) 3. 記念事業維持会費

日本農芸化学会 2012 年度京都大会開催概要 (案)

期日 2012 年 3 月 22 日～25 日
 実行委員長 加納健司
 副実行委員長 植田和光、土居幸雄、伏木 亨
 総務 成田宏史、河田照雄、森 直樹、桂 博美

3 月 22 日(木)

ウェスティン都ホテル京都

午前： 授賞式 (山城の間) 午後： 受賞講演 (山城の間) 懇親会 (瑞穂の間)
 ○総会は別途開催； 公益法人化に伴い、午餐会は開催しない

3 月 23 日(金)～25 日(日) (21, 22 日設営準備 26 日後片づけ)

京都女子大学

一般講演 3 月 23 日～25 日午前

液晶プロジェクター使用、並列進行を軽減、座長 1 名制

質疑応答中もプロジェクター使用ができるように変更可能か再検討

シンポジウム 3 月 25 日午後

2011 大会は成立したことを考慮してテーマ募集 (19～24 テーマ)

拡大サイエンスカフェ (一般公開、Web による事前登録制)

3 月 23 日(金)の昼休み時間 (老舗料理人の都合を考慮)

Q 校舎にてランチョンシンポ方式 (講演会と老舗弁当) 500～800 円@200～220 食

ランチョンセミナー、アピールコーナー、展示

例年通り募集予定

要旨集

冊子体を作成せず PDF(Web でダウンロード)への変更を検討

利点：経費削減、事務作業の軽減、文字拡大化

完全な資料保管に関する利便性の増大 (修正、検索・閲覧、保管場所)

欠点：冊子体の利便性の喪失

○プログラム集には人名索引・キーワード索引を追加し、冊子体で発行予定

参加費

参加費減額を検討、被災者には参加費免除等の措置を検討

関連行事

○化学と生物シンポジウム

○フロンティアシンポジウム

3 月 21～23 日か 3 月 25 日～26 日の間の 2 日間を予定？ (聖護院御殿荘?)

○ジュニア農芸化学会 (一般公開)

3 月 24 日(土)午後

JST、文科省、教育委員会等他団体の協賛を得て、高校が旅費を独自に獲得しやすく

独立会計へ向けて、外部協賛金、援助品の獲得

未来の生命・食糧・環境に向け“農芸化学”ができること 日本農芸化学会 2012 年度大会シンポジウム課題の募集

日本農芸化学会 2012 年度大会実行委員会

日本農芸化学会 2012 年度大会は 2012 年（平成 24 年）3 月 22 日（木）～25 日（日）の 4 日間、京都女子大学（京都市東山区）を主会場として開催される予定です。2011 年度大会が東日本大震災の影響で要旨集をもって成立となったことを踏まえまして、日本農芸化学会 2012 年度大会実行委員会では前年度とは異なったコンセプトで 2012 年度大会の準備を進めております。

シンポジウムにつきましては、最終日 3 月 25 日（日）の午後に、約 20 課題のシンポジウムを予定しており、シンポジウム課題は以下の要領で広く会員の皆様に公募します。テーマのご提案にあたりまして、以下の大会シンポジウム指針を参考にしてください。

農芸化学は、物理化学、有機化学、生化学、遺伝学、分子生物学など様々な学術基盤に立脚し、「生命・食糧・環境」の分野を主な対象として生命現象の機構解明と幅広い応用を目指して発展してきました。2011 年度の大会開催を断念せざるを得なくなった原因は東日本大震災であります。この未曾有の自然災害を期に、日本全国で多くの学協会、研究機関、政府諸機関などが、こうした大災害に対して「今自分達に何ができるか」、「将来構想はどうあるべきか」を見直しているところでもあります。我々農芸化学会も例外ではありません。

そこで 2012 年度の京都大会のシンポジウムでは、すでに動いている東北地方の復旧や復興のさらに先を見据え、未来の安全・安心を支える「生命・食糧・環境」のために農芸化学に何ができるか、を中心コンセプトにしたシンポジウム課題を募ります。この中には、農作物など食品をめぐるリスク評価、植物・微生物のストレス耐性、環境浄化技術や放射線生物学なども包含されます。

なお、2012 年度の大会シンポジウムでは上記コンセプトに寄せて、「植物を巡る機能性低分子の動態」、「ストレス環境下における微生物の潜在能力」、「メタボリックシグナルと健康科学」、「膜タンパク質・酵素解析の新展開」の 4 つのキーワードに基づいて海外のシンポジストを招聘し、4 件の委員会企画シンポジウムを開催する予定ですが、それ以外に約 20 件のシンポジウムを会員の皆様から募集いたします。ご提出いただいたシンポジウム企画は、シンポジウム準備委員会にて選定・決定の後、8 月末頃までに応募者宛てに採否をご連絡いたします。

その他ご不明な点がございましたら、シンポジウム担当までお問い合わせください。

(シンポジウム公募要領)

未来の生命・食糧・環境に向け“農芸化学”ができること

応募期限：2011年7月29日(金)

必要事項：

- 1) タイトル(仮題)
- 2) 世話人(2～3名)の氏名・所属(全員が学会員であること)
- 3) 趣旨と概略(400字程度)
- 4) 予定される講演者案(所属 及び 学会員・非学会員区分)
- 5) 予想される聴衆の数(小規模のシンポジウムも歓迎いたします)
- 6) その他の参考となる事項
- 8) 世話人代表者氏名および連絡先(〒、所在地、所属、TEL、FAX、E-mail)

なお、学会の公益法人化に伴い、例年とは異なって世話人には若干の会計処理業務を依頼することになりますので、その旨お含みいただきますようお願いいたします。

応募先：

jsbba2012@aeplan.co.jp

メールの件名を、「農芸化学会シンポジウム応募」として送信してください(折り返し、受領通知をお送りしますので、ご確認ください。受領通知がない場合は再度ご送付をお願いします)。

問い合わせ先：

シンポジウム担当

代表 矢崎一史 (京都大学生存圏研究所) yazaki@rish.kyoto-u.ac.jp

副代表 井上善晴 (京都大学大学院農学研究科) y_inoue@kais.kyoto-u.ac.jp

井上和生 (京都大学大学院農学研究科)

kazuo.inoue@spiral.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

URL: <http://www.jsbba.or.jp/event/annual/>